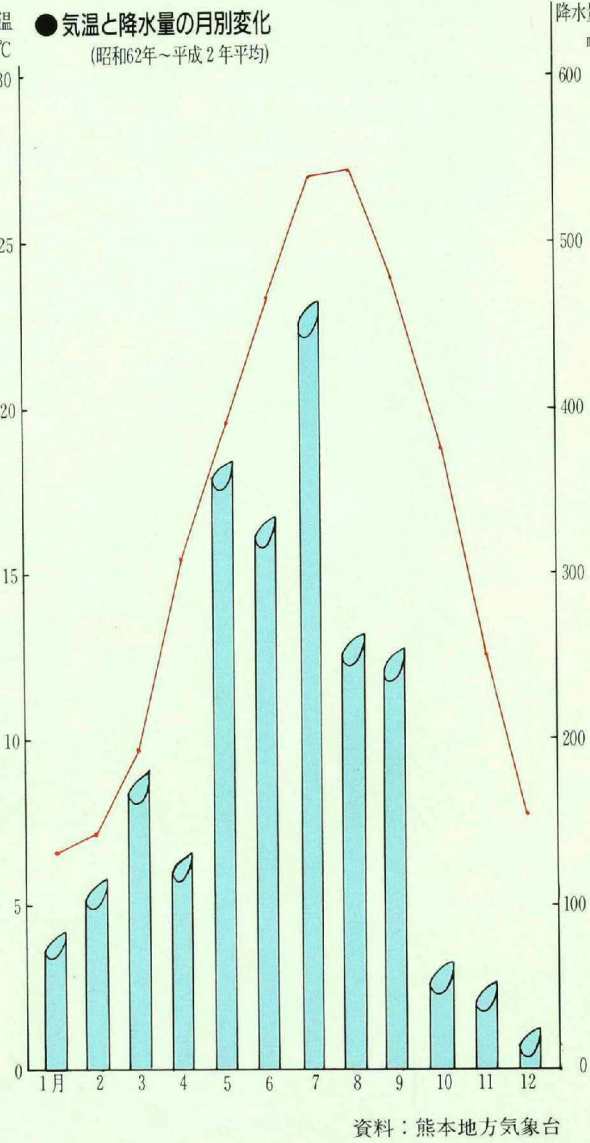
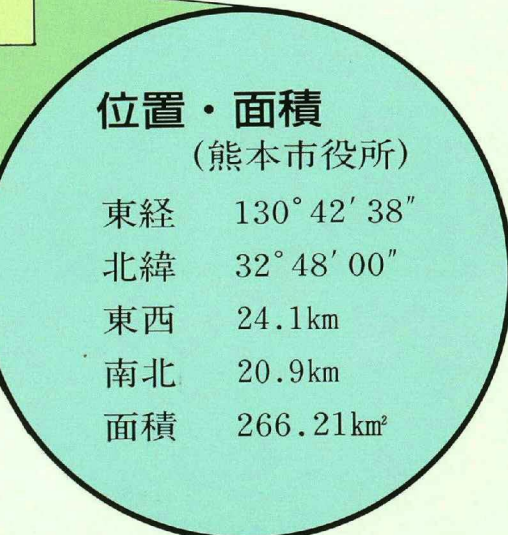
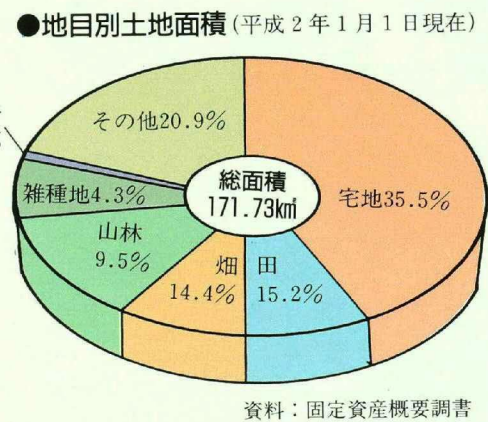
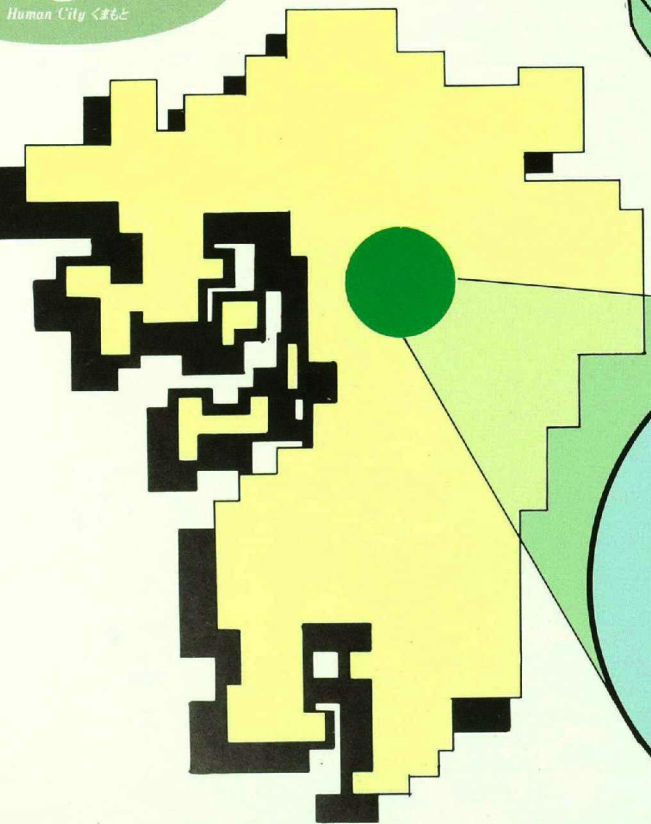


# 地域と気象



# 人口



明治22年、市制施行当時42,725人(M.22.12.31現在)であった本市の人口は、その後、数回にわたる市域の拡大や都市機能の集積等に伴い増大し、昭和52年には50万人を超え、平成3年2月1日には、飽託郡4町と合併し、627,568人(224,219世帯)となり、岡山市を抜いて全国で15位となりました。また、近年の人口増加は年率1%前後で推移し、一世帯当たり人員は2.80人となっています。

また、昭和60年と昭和55年の国勢調査を比べると30,057人、5.7%の増加で、昭和50年以降、増加数、伸び率ともに鈍化しています。

さらに年齢3区分別にみると、0～14歳の年少人口が21.5%、15～64歳の生産年齢人口が68.7%、65歳以上の老年人口が9.9%となっており、55年より年少人口の割合が1.0ポイント低下したのに対し、老年人口が1.1ポイント上昇するなど、高齢化が進みつつあります。

また、人口の地域分布では、平成2年の国勢調査概数結果でみると、およそ東部に24万7千人、北部に11万4千人、中央部に7万8千人、南部に7万4千人、西部に6万6千人となっています。この中で、中央部だけが人口の減少が続いています。

なお、人口分布の偏りを示す人口重心は、25年から一貫して東へ寄り続け、平成2年では、熊本高校運動場西側に移動し、相変わらず東部方面の人口が増加していることを示しています。

**都市圏人口**

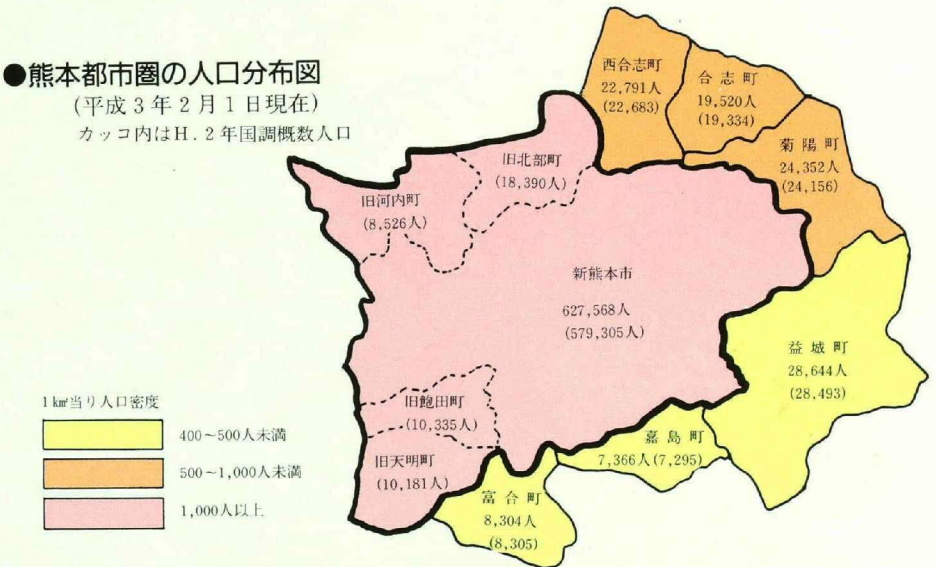
熊本都市圏の人口は、平成3年2月1日現在 738,545人(255,415世帯)で熊本県総人口の40.1%を占めています。人口増加率は、0.7%となっています。

都市圏人口は、昭和30年国勢調査以降、5年毎に熊本市は4万人前後で増加して

いましたが、昭和60年から平成2年までは約2万4千人(4.2%)の増加となり、伸びが鈍化してきました。また、10町の人口は、昭和45年までは減少し、昭和50年に増加に転じ、55年にピークとなり、増加率は20.5%の大幅な増加となっています。

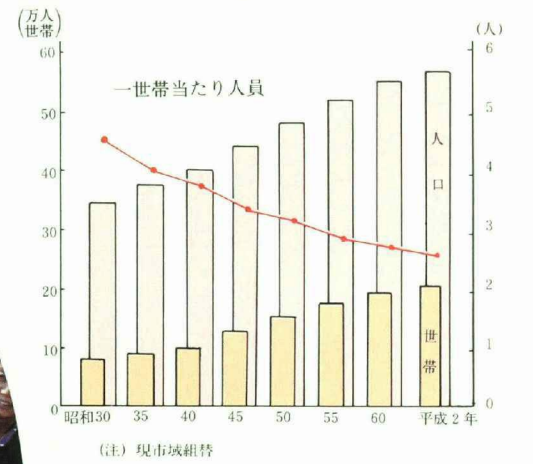
昭和45年から平成2年までの20年間の都市圏人口の増加数は約18万3千人となっています。現在、人口増加のピークは過ぎたものの年平均6千人から7千人の増加を続けています。

●熊本都市圏の人口分布図 (平成3年2月1日現在) カッコ内はH.2年国調概数人口

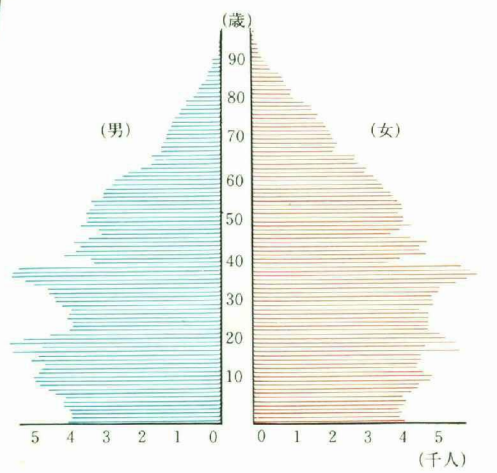




人口・世帯数の推移  
(国勢調査)



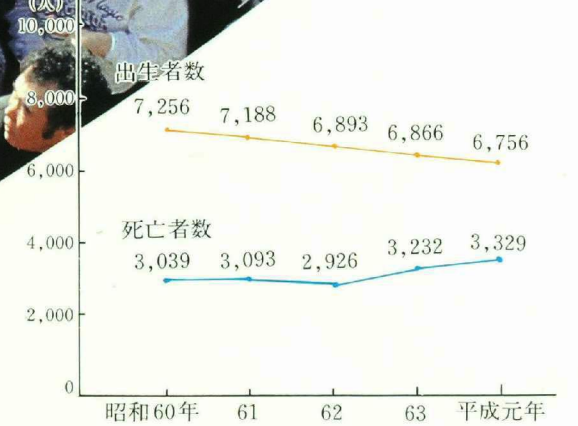
年齢別人口構成 (60年国勢調査)



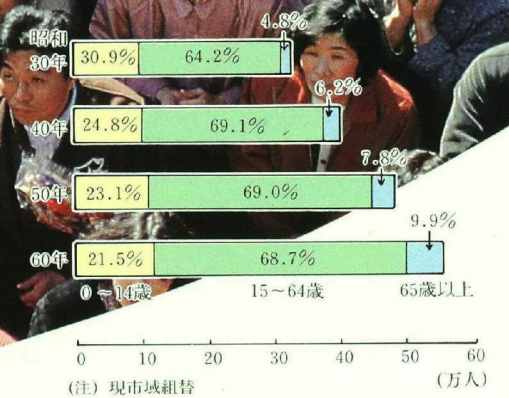
流入人口の推移 (国勢調査)



自然動態



人口の年齢 (3区分) 構成推移 (国勢調査)



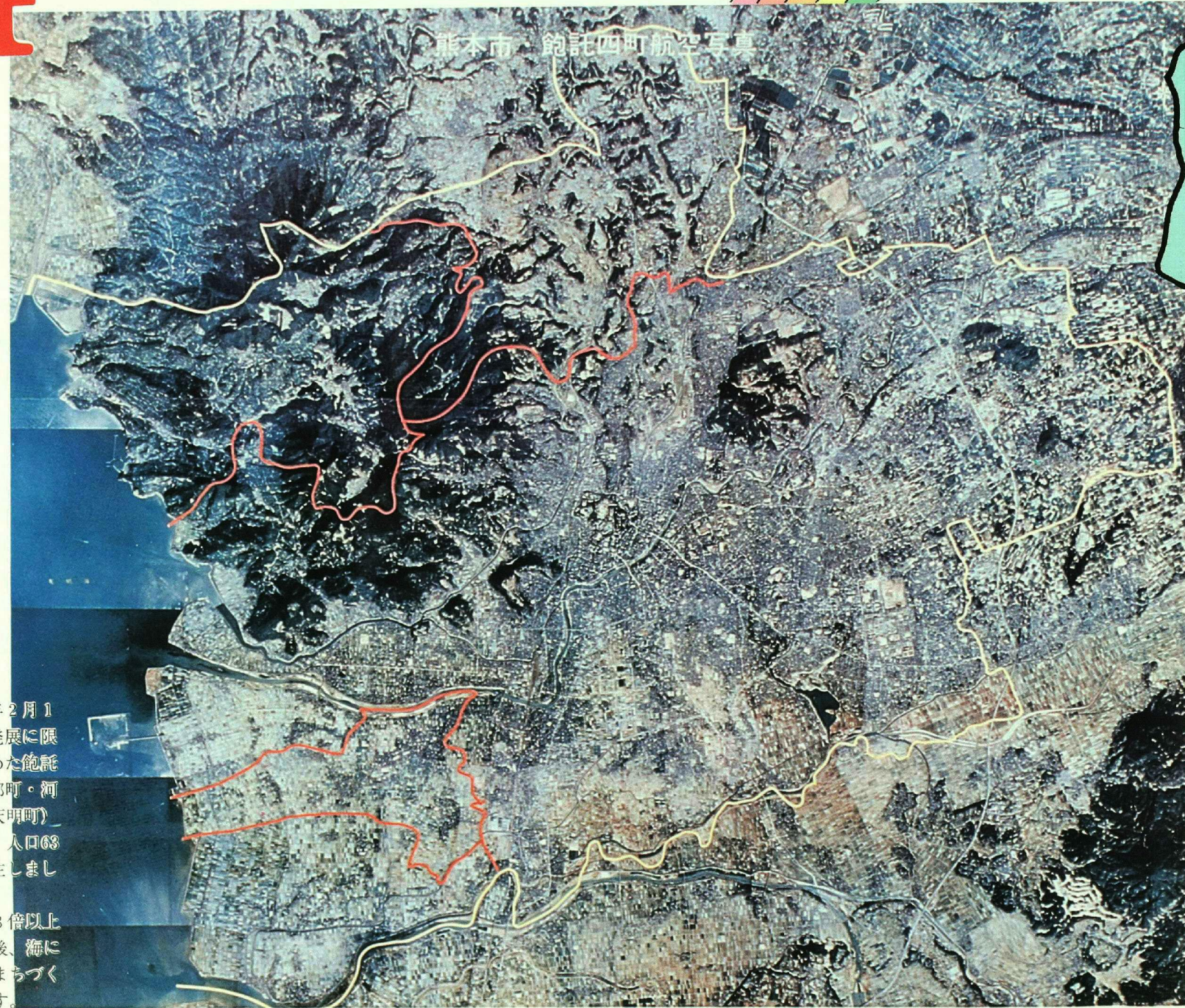
社会動態



# 4町合併

共に歩む新しい熊本市のすがた

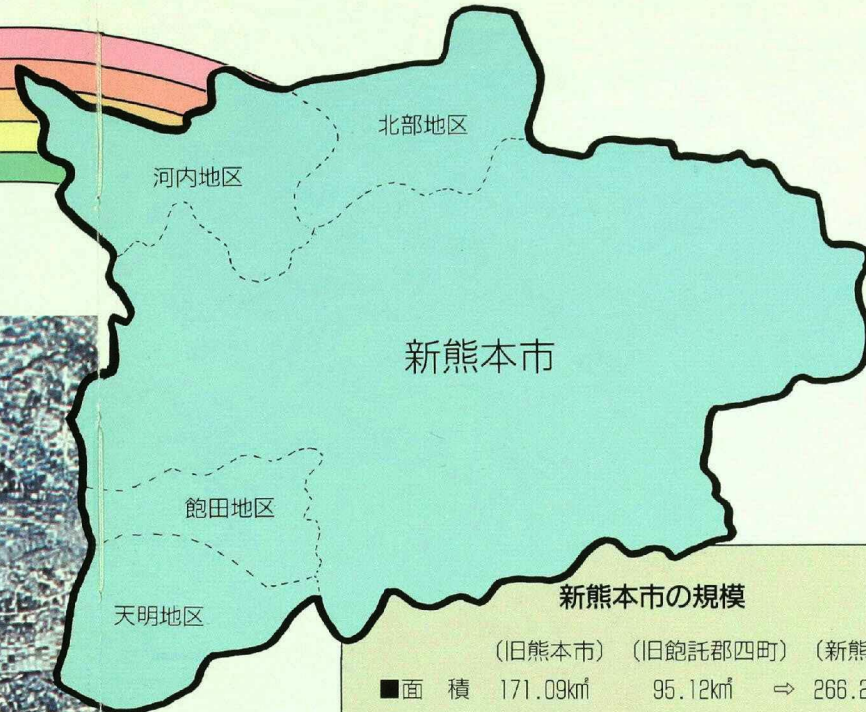
新熊本市の誕生



熊本市は平成3年2月1日、新たな本市の発展に限りない可能性を秘めた飽託郡最後の四町（北部町・河内町・飽田町及び天明町）との合併を実現し、人口63万の新熊本市が誕生しました。

海岸線も従来の3倍以上の22kmとなり、今後、海に向かって開かれたまちづくりが可能となります。

（平成元年1月撮影 熊本市・旧飽託郡四町航空写真）



## 新熊本市の規模

|      | (旧熊本市)                | (旧飽託郡四町)             | (新熊本市)                  |
|------|-----------------------|----------------------|-------------------------|
| ■面積  | 171.09km <sup>2</sup> | 95.12km <sup>2</sup> | ⇒ 266.21km <sup>2</sup> |
| ■総人口 | 579,583人              | 47,985人              | ⇒ 627,568人              |
| （男）  | 275,550人              | 22,653人              | ⇒ 298,203人              |
| （女）  | 304,033人              | 25,332人              | ⇒ 329,365人              |
| ■世帯数 | 211,143世帯             | 13,076世帯             | ⇒ 224,219世帯             |

（平成3年2月1日現在の推計人口・世帯数）



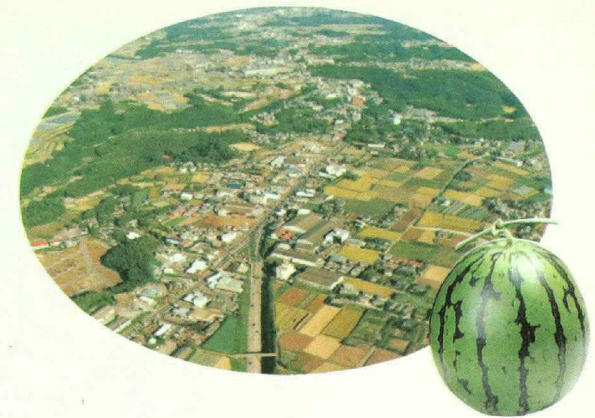
事務引継式の模様（平成3年2月1日）

## 北部地区

“緑と史跡といで湯のまち”

北部地区は美しい自然環境と活気ある産業、新しい都市化の息吹があふれるまちです。

近年、流通企業の進出や住宅団地の開発なども著しく、交通条件の優位性を活かした発展が期待されます。



## 河内地区

“海と緑に囲まれたオアシスのまち”

河内地区は金峰山、二ノ岳、三ノ岳の緑豊かな自然に囲まれ、その裾野から広がる丘陵を活かしたミカン栽培で有名なまちです。

波静かな有明海に面した風光明媚な海岸線は、これまでの本市にない魅力に満ちています。



## 飽田地区

“美しい水と緑、豊かで活力のあるまち”

飽田地区は東西に細長く豊かな田園地帯が広がり、県下でも屈指の農業地帯として発展してきたまちです。

近年、熊本港の新設とともに新港と国道57号を結ぶ県道熊本港線の建設も予定され、徐々に都市化が進んでいます。



## 天明地区

“美しい環境、未来への夢があふれるまち”

天明地区は日本で最も古い干拓地で、肥沃な土壌にも恵まれ、早くから農業基盤整備が進められたまちです。

有明海の豊富な海の幸にも恵まれ、近年では、「とる漁業」から「育てる漁業」への取り組みも始められています。

